

Chie Teramoto, Atsushi Matsunaga, Satoko Nagata.
Cross-sectional study of social support and psychological distress
among displaced earthquake survivors in Japan.
Japan Journal of Nursing Science. 12(4), 320-329, 2015.

東日本大震災後の 仮設住宅住民に必要な 人々からの支援とは？

寺本千恵

東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻地域看護学分野

背景 東日本大震災 災害と精神的健康

- 2011年3月11日東日本大震災発生 東北地方は甚大な被害
- 災害体験⇒**精神的健康の悪化**(うつ・PTSD・心理的ストレス 等)
- 災害後の精神的健康の悪化要因 (Zhangら, 2011他)
 - 個人属性(年齢、性別、就業状況、既往歴 等)
 - 被害状況(家屋損壊、家族の喪失、負傷 等) (van Griensvenら, 2006他)
 - **仮設住宅居住** (Kun, 2009他) **社会的支援の不足** (Xu, 2011他)
 - 社会的支援は個人属性(年齢・性別)に影響 (Vaux, 1985)
- 支援(タイプ・源)の組合せ、属性に着目した先行研究ない

災害後の精神的健康の悪化防止に有効な社会的支援(タイプ・源)を個人属性別に明らかにする必要がある

【目的】東日本大震災後の仮設住宅住民において、性・年齢別に「だれからの」「どのような」社会的支援が心理的ストレスに関連するかを検討

方法1 対象地域と仮設住宅

●対象地域： A県B町

地域の概要

- 町の中心は沿岸部
- 震災前の高齢化率
32.4%（全国：22.8%）
- 就業者の約40%
漁業、水産加工業、倉庫管理業
（国勢調査, 2010年）

被害状況

- 死者：803名、行方不明者：455名
⇒ 震災前人口の8.2%
- 全壊＋半壊：3,717戸（2012.12.31現在）
- 市街地や行政機関に甚大な被害

●仮設住宅

- 仮設住宅団地48か所
- 1団地あたり7～253戸、計2,106戸
- 沿岸部より離れた内陸、川沿いに建設
- 入居開始時期：2011年6月



方法2 対象とデータ収集、分析方法

● 研究対象者: 9団地の仮設住宅に住む20歳以上の成人

● データ収集

調査時期: 2012年1月21日～3月31日(震災後10～12か月後)

調査方法: 質問紙調査+面接調査(対象者が高齢で回答困難な場合)

配布方法: 研究者+調査員12名(事前に説明会実施)

調査員が一軒一軒訪問し、直接説明・手渡し ポストに投函(不在時)

● 分析方法

4グループ別の心理的ストレスに関連する社会的支援を検討

65歳未満	男性
65歳未満	女性
65歳以上	男性
65歳以上	女性

×

情緒的支援(家族、団地内友人、団地外友人)
情動的支援(家族、団地内友人、団地外友人)
手段的支援(家族、団地内友人、団地外友人)
コンパニオンシップ (家族、団地内友人、団地外友人)

方法3 調査項目

- 個人属性

性別、年齢、就業状況、婚姻状況、家族構成、治療中の病気の有無

- 家族の被害状況

家族の減少、配偶者の喪失

- 社会的支援

(Cohen, 1985他)

支援タイプ	情緒的支援	悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人
	情報的支援	必要な時に情報をくれたり助言をくれる人
	手段的支援	困った時に助けや手伝いを頼むことができる人
	コンパニオンシップ	一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人
支援源	家族・親戚	(以下、家族)
	団地内知人・友人	(以下、団地内友人)
	団地外知人・友人	(以下、団地外友人)
		合計12質問

- 心理的ストレス

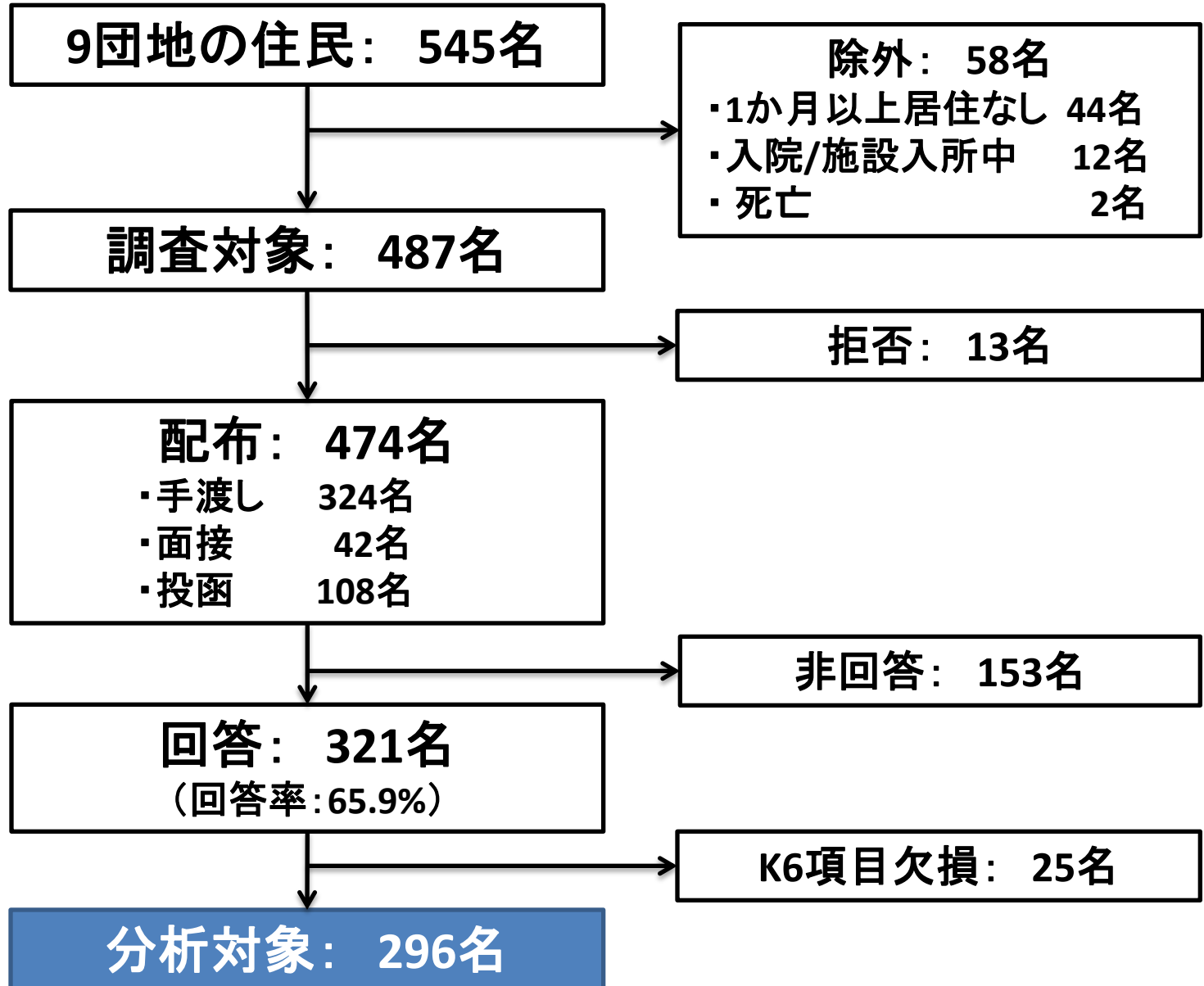
K6日本語版 (Kessler, 2002; Furukawa, 2008)

気分障害、不安障害のスクリーニング

合計0点～24点、カットオフ値4/5点(感度100% 特異度68.7%) (Sakurai, 2011)

注:パイロットテスト(仮設住宅住民14名+町職員)を行い、質問紙の内容構成を改良

結果1 対象者フロー



結果2 対象者の概要

心理的ストレス 平均 5.1 (SD:5.9) 点

5点以上 122名 (41.2%)、4点以下 174名 (58.8%)

n= 296

n= 296

個人属性

年齢	(歳)	59.0±16.8
性別	男性	127(42.9)
	女性	169(57.1)
就業状況	就業あり	123(41.6)
	就業なし	167(56.4)
婚姻状況	婚姻	169(57.1)
	婚姻なし	127(42.9)
家族構成	一人暮らし	37(12.5)
	配偶者のみ	80(27.0)
	家族と同居	179(60.5)
治療中の病気	あり	156(52.7)
	なし	134(45.3)

被害状況

家族の減少	あり	102 (34.5)
	なし	190 (64.2)
配偶者の喪失	あり	18 (6.1)
	なし	278 (93.9)

注:n (%)

注:n (%) もしくは mean±SD

結果3 心理的ストレスに関連する社会的支援(65歳未満)

		男性 (n = 77)			女性 (n = 94)		
		OR	(95% CI)	p値	OR	(95% CI)	p値
情緒的支援	家族	0.12	(0.03 - 0.44)	< 0.01	0.57	(0.15 - 2.15)	0.41
	団地内友人	6.00	(0.86 - 42.00)	0.07	0.52	(0.14 - 1.90)	0.33
	団地外友人	1.12	(0.31 - 4.07)	0.87	0.80	(0.28 - 2.28)	0.67
情動的支援	家族	0.10	(0.02 - 0.50)	< 0.01	0.90	(0.18 - 4.42)	0.90
	団地内友人	3.18	(0.69 - 14.74)	0.14	0.87	(0.30 - 2.53)	0.80
	団地外友人	1.31	(0.35 - 4.86)	0.68	0.81	(0.28 - 2.40)	0.71
手段的支援	家族	0.08	(0.01 - 0.45)	< 0.01	0.47	(0.09 - 2.58)	0.39
	団地内友人	2.39	(0.57 - 9.99)	0.23	1.34	(0.48 - 3.74)	0.57
	団地外友人	0.99	(0.29 - 3.41)	0.99	0.79	(0.30 - 2.14)	0.65
コンパニオンシップ	家族	0.23	(0.08 - 0.73)	0.01	0.51	(0.15 - 1.66)	0.26
	団地内友人	2.44	(0.46 - 13.07)	0.30	0.92	(0.27 - 3.19)	0.89
	団地外友人	1.69	(0.56 - 5.13)	0.35	1.08	(0.38 - 3.03)	0.89

注:OR; オッズ比 CI; 信頼区間 「治療中の病気の有無」、「就業状況」で調整

65歳未満男性では、
4つ全ての社会的支援で家族からの支援があると心理的ストレスが低かった

結果4 心理的ストレスに関連する社会的支援(65歳以上)

		男性 (n = 50)			女性 (n = 75)		
		OR	(95% CI)	p値	OR	(95% CI)	p値
情緒的支援	家族	0.31	(0.04 - 2.60)	0.28	0.05	(0.00 - 0.62)	0.02
	団地内友人	2.16	(0.29 - 16.02)	0.45	0.29	(0.07 - 1.23)	0.09
	団地外友人	6.49	(1.15 - 36.71)	0.03	0.57	(0.17 - 1.91)	0.36
情動的支援	家族	0.43	(0.03 - 7.13)	0.56	0.35	(0.08 - 1.62)	0.18
	団地内友人	0.34	(0.07 - 1.72)	0.19	0.17	(0.04 - 0.65)	< 0.01
	団地外友人	3.34	(0.70 - 15.96)	0.13	0.24	(0.06 - 0.92)	0.04
手段的支援	家族	0.87	(0.08 - 9.43)	0.91	1.12	(0.23 - 5.34)	0.89
	団地内友人	0.47	(0.08 - 2.76)	0.40	0.22	(0.06 - 0.75)	0.02
	団地外友人	2.86	(0.56 - 14.49)	0.20	0.45	(0.14 - 1.42)	0.17
コンパニオンシップ ^o	家族	1.69	(0.30 - 9.66)	0.56	1.27	(0.29 - 5.49)	0.75
	団地内友人	0.55	(0.11 - 2.86)	0.48	0.14	(0.04 - 0.52)	< 0.01
	団地外友人	1.73	(0.39 - 7.68)	0.47	0.28	(0.08 - 1.02)	0.05

注: OR; オッズ比 CI; 信頼区間 「治療中の病気の有無」、「就業状況」で調整

65歳以上男性では、団地外友人からの情緒的支援があると心理的ストレスが高く、
65歳以上女性では、家族からの情緒的支援と
団地内友人からの社会的支援があると心理的ストレスが低かった

考察1 対象者の心理的ストレス

心理的ストレス(K6):5点以上(%)

● 本研究対象者:41.2%

▪ 一般住民:27.5% (川上, 2007)

▪ 東日本大震災被災者

岩手県 陸前高田市・山田町・大槌町 一般住民

6~9か月後:41.3%~44.7% (坂田, 2012)

宮城県 仙台市・石巻市 仮設住宅住民

3~5か月後:50.4% (辻, 2011)

本研究対象者の心理的ストレスは
他の東日本大震災の被災者と同様に
一般住民よりも高かった

考察2 ソーシャル・サポートと心理的ストレス (65歳未満の男女)

● 男性

家族からのサポート(4タイプ)があると心理的ストレスが低い

- ・ 阪神・淡路大震災被災者(60歳未満)

情緒的サポートとPTSD 男性のみ関連あり (Kwon, 2001)

- ・ 一般日本人成人

家族からの手段的サポートとうつ 男性のみ関連あり(福岡, 1997)

⇒他人に手伝いを求めることをためらうため、家族がより重要

家族からのソーシャル・サポートが重要であり、
家族を亡くした人や独居者はリスクが高いと考慮し、
注意を払う必要がある

● 女性

いずれのサポートも心理的ストレスと関連なし

⇒別の要因が心理的ストレスに関連

考察3 ソーシャル・サポートと心理的ストレス (65歳以上の男女)

● 男性

団地外友人からの情緒的サポートがあると心理的ストレスが高い
⇒強いストレスを感じて初めて他の人に相談する可能性がある

家庭訪問などのアウトリーチにより、状況悪化を防ぐ

● 女性

家族からの情緒的サポート、団地内・外友人からの情動的サポート、
団地内友人からの手段的サポート・コンパニオンシップがあると
心理的ストレスが低い

- ・ 一般日本人高齢者(70歳以上)

手段的サポートとうつ 女性のみ関連あり (Koizumi, 2005)

⇒近隣との関係が重要

⇒悩み事の相談に関しては家族からのサポートが重要

復興・公営住宅への転居の際に友人づくりに向けた支援
同居の家族の有無、連絡の頻度等を把握し、注意を払う